

同窓會報

昭和十一年度同窓會役員左の如し。

會長	院長	望月日謙	視下
副會長	教頭	遠藤是妙	先生
庶務部	部長	鹽田義遜	先生
	幹事	田中惠殿	君
會計部	部長	中條是明	先生
	幹事	下邨顯淨	君
辯論部	部長	松木本興	先生
	幹事	宇佐美鍊昌	君
文學部	部長	今村是龍	先生
	幹事	牛居行信	君
	助手	穗坂顯淳	君
運動部	部長	林是幹	先生
	幹事	香川是光	君

同窓會報

購買部

部長	望月德英	先生
幹事	米村泰信	君
助手	清水文要	君

……幹事の挨拶……

本年度同窓會の陣容を如上の通り整え、各部長先生に多大の御指導を仰いだ事は暫くとして、此の重責を擔つた私達は若輩未熟でありましたが、各幹事は夫々の任務を承り「日蓮が弟子は臆病にては叶ふべからず」との聖語を拜して、此に力強き結成の誓をなしました。且又私達には昨年度に於いて、本會が一段の飛躍目醒しく、それによつてガツチリと組立てられた基礎工作によつて、次になすべくして與へられたものは、その堅固な骨組と土臺の上に相應しい立派な工作を施す事が望まれてゐた。私達の責務の重大性は此にあつた。而して又祖廟中心の聲高まる此の時、母校の誇を高揚して、教學の根本道場祖山を築き上げる使命を本會は帯び、本會が不斷の活動は我等が祖山の躍動する姿である。負はされた責務と本會が持つ使命を果すべく、期待され若輩にしてその衝に當つた私達八人は期待にそむいてその仕事の結果は不完全極る事を懺愧せなければならぬが、愛校の念と一身を會に捧げ、熱と意氣に燃ゆる若人がたゞ

懸命の努力を以て進んで來ました此の些々たる大樹にそゞ小
雨の一滴に等しい私達の努力が、何時の日か？一葉一枝を育み
得れば幸甚、私達の余りの微力を補ひ將來益々堅陣を築き本
會が發展し祖山が榮昌する事を望んで止まない者であります。

最後に筆を新にして、會長殿下を初め奉り、役員諸先生、其
他各先生、本山當局等の懇切な御庇護と御指導に深甚謹謝し、
併せて先輩諸賢、有縁各位及び會員諸兄の好意を盡しての御後
援に對して満腔の謝意を表すものであります。

— 二、一、田中生欄筆 —

各部記事

◇庶務部

幹事 田中 惠 殿

棲神第廿一號記載以後(昭和十一年一月以降)の主要事項を記
す。

一月廿六日 劍道部寒稽古納會、多數の劍士出場盛大裡に終る。

二月一日 棲神第廿一號印刷製本完了す。

二月二日 運動部主催山梨靜岡縣下卓球個人選手權大會舉行。

同日 支院武井坊全燒す、學生活躍目醒しかりき。

二月三日 武井坊火災見舞を呈す。

二月七日 棲神第廿一號の頒布を終る。

二月十六日 聖祖降誕の佳日を迎へて、本會主催第一回書道展
覽會並びに降誕及び學院創立記念茶話會、辯論部第三學期校
内辯論大會等々開催、本年度掉尾を飾るに相應しく且つ盛大
なりき。尙庶務部田邊幹事は降誕會及び學院創立記念日に關
して次の如き聲明書を發表す。

年々歳々廻り去り廻り來ル此二月十六日デハアルガ、苟も
題目ヲ唱ヘル者ノ總テガ……別シテハ大聖止魂ノ靈山ニ行學
スル吾等祖山學徒トシテ假初メニモ迂濶ニ過スベカラザル一
月ナル事ハ言ヲ俟タザルトコロデアル。

△我々ノ良心、否吾人ノ信仰的情熱ハ使ヒ古サレタバレノ
刃デハナイ。

△宗祖降誕ト學院ノ創立!!

吾等ニハ已ムニ已マレヌ嚴肅ナ反省ト抑ヘ難イ悦ビノ沸騰
トガアル。即チ諸君ノ内ノ幾人カ今マデ最モ忠實ニ且ツ
懸命ニ、ソレ等ニ就テ述ベタ。

△既ニ理窟ハ要ラナイ。タゞ先ヅ想ヒヲ貞應元年ノ昔ニ馳セ
ヨ。無限ノ大洋ト無限ノ碧空、水平線上ニ上ル日輪、綺麗
ナ入海ニ点々タル海人ノ家々、見事ナ常盤木ノ丘、ソシテ
數々ノ奇瑞。

△世界ノ光ガ東方カラサシ初メタ、月ハ明淨ノ二字ニ盡キテ
キタロウ。

△我々ノ濁ツタ魂ハ淨メラレ、汚レタ身体ガ甦ル日ダ。